ちかさなりて見えたるに、略下

〔枕草子八〕故殿の御ふくのころ、略中れいのやうにかうしなどもなく、只めぐりてみすばかりをぞかけたる、中々めづらしうおかし、

〔明月記〕寛喜三年九月三日丙戌、殿下御所之中、以康入道新造厩牛屋、立御馬五疋御牛三頭、剩懸御所翠簾、

〔夫木和歌抄三十簾〕こすげのすだれ　よみ人しらず

玉だれのこすのすだれをゆきがてにいはねられねど君はかよはず

御簾編

〔鶴岡放生會職人歌合〕右

夕まぐれこすの間とをる月影はくまなきよりもあはれなる哉

〔倭訓栞中編伊〕いよすだれ　伊豫浮穴郡露峯の山中より出る篠簾也、六帖に、

年を經て世にすゝけたるいよ簾かけさげられて身をばすてゝき、物にいよすとも見えたり、其篠至て細く、一間にあまりて延やかに生立ものといふ、

〔安齋隨筆後編四〕一伊與簾　源氏所々に見へたり、下さまの家、又ゐなかびたる所にいよすの事をいへり、うきふねの卷にも、宇治の宮の所にも、いよすさら〳〵となるもつゝましといへり、今も伊豫國にて作る也、今昔物語にも伊與簾見へたり、

〔伊豫古蹟志二浮穴郡〕露峯邑、略中斯邑織簾、其篠誕之節兮、小而長矣、和歌者流所詠、伊與簾是也、

〔新猿樂記〕四郎君、受領郎等、刺史執鞭之圖也、略中常擔集諸國土產、貯甚豐也、所謂、略中伊豫手箱、又砥、又鰯、又簾、

〔源氏物語三十六柏木〕例のわたり給へる庭も、やう〳〵あをみ出る若草みえわたり、略中わけ入たまふいよすかけわたして、にびいろの木丁の衣かへしたる、